

人物像

- 坊主見習い
- 年齢一つ上
- 高校時代からの友人

- 身長 180後半。
- 茶髪, [スキンヘッドではない](#)
- エロゲでたとえると、古河秋生(CLANNAD)
- 割と良い顔

- 尊敬する和尚がいる
- 友達が少なく不良だった様子
-> 主人公がびびらないで話をしてたら仲良くなってた
- 兄貴的存在

- 好きな漫画: ジャンプ(特にいちご100% : 西野つかさ 好き)
- ガンダム, 純愛系ギャルゲ好き

能力

- 靈感はそれほどないようで、声しか聞こえない

主なイベント

- [引きの強さと愛について](#)
- [ぎ・焼肉パーティー](#)
- [坊主召喚](#)
- [急な発熱で寝込む主人公「」と見舞いに訪れる素敵な友人知人](#)
 - [坊主](#)
 - [巫女でもよぶかぁ](#)
- [毎朝世話してくれ!](#)

出会い [M16,M14]

屋上にて

坊主 : 空見てるのか?

主人公「」: あ! は、はい!

坊主 :ふーん

会話、途切れる

直感的に

この人にときメモ(2)を薦めたほうがいい!

主人公「」：あの……ときめきメモリアル貸してあげましょうか！？

坊主：……え！？持ってるの

主人公「」：丁度かばんに入ってるので！どうぞ！どうぞ！！(普及のために所持)

坊主：なんでいきなり……

主人公「」：顔を見て、なんとなく分かるんです！

以後、見事に Air まではまる
それほど仲良くなかった頃
主人公「」に坊主付きまとい

- 3日ぐらいかけて要約
- 劇場版三部作を見せる

事によりガンダム世界にはめる、ぼろぼろ感動するほどに。
ちょうど連邦vsジオン 稼働中で良い対戦相手となり、ここから一気に仲良くなる

主人公「」へのアドバイス

「黒いのに襲われたんだけど…」

「[インドいけ](#)」

「マジなら俺にはどうしようもない。悪霊ならわかんないけど、お前の会ったのは概念的なモノかもしれん。なら高僧って呼ばれたり、そういうの専門の人じゃないとムリ。俺が中途半端に行くと俺も死ぬ。」

爺達の話をしたら

「胡散臭さと現実味、五分五分だな。言ってることは矛盾が無いから俺は信じてもいいと思う。ただ、ついていったら帰ってこれないのは覚悟しとけ。戦士と一般人と坊主は全部違うからな。インドじゃなくてもチベットとかでもいいかもな。」

「巫女に相談したほうがよい？」

「まあ面白いんじゃない？」

「(巫女に)破魔矢薦められました」

「笑った。巫女らしい」

「神主の了解も得たんだが、やっぱりお前はまずい位置にいると自覚したほうがいい。開きかけてるんだったら生活に違和感があるはず。」

ネット(二次裏)で喋ったことを言ったら

「知らなくていいことを教えてる。注意して見るようになる人がいるかもしれない。それで見えたら今のお前みたいになるかも。責任とれるのか？」

主人公「」普通発言に対して

「普通だよ、普通。寝ろ寝ろ。」

主人公「」ってどんな人？

他人の意見に左右されやすく優柔不断に見える
こんな事(妙な質問とか相談)ばかりさせてごめんね
もうなれた

主人公「」がいなくなったらどうする？

シャンバラにでも行くのか？

近況

- 親友 という甘美な言葉にかこつけて「世話してくれ」と迫る主人公「」に呆れ気味

確信した。アホはお前だ